

早めの暑熱対策を！！



【牛編】

近年、温暖化の影響か、毎年のように「異常気象」、「猛暑日」等の言葉を耳にします。新しい気象用語も毎年のように耳にします。昨夏は、静岡県浜松市で、8月16日に40.2℃を観測、翌日にはさらに気温が上がって日本歴代最高気温に並ぶ41.1℃を記録しました。また、平均気温は1970年代と比べ、2010年に入ってから約1.5℃上昇しています。牛は人間より暑さに弱く、乳牛で25℃、和牛で30℃を超えると暑熱ストレスを受け、乳量の減少、乳質の悪化、増体・繁殖成績の低下等を起こしやすくなるので、人が感じる以上に快適な畜舎環境を設定してあげる必要があります。

暑熱対策には、換気扇の増設、屋根への遮熱塗料塗布、遮光ネットの設置等の畜舎環境面と、新鮮な水の給与、鈹塩・ビタミン・ミネラルの補給、飼槽の清掃による飼料の劣化の管理、密飼いの回避、毛刈り等の飼養管理面に大別されます。



換気状態の判断ポイント

- 不快な臭い（場所によってアンモニア臭で目が痛くなる。）
- 蒸し暑く不愉快。
- 牛床の上で立っている牛が目立つ。
- 牛床や通路がいつまでも乾きづらい。
- メガネが曇る。等

高泌乳牛、分娩前後、肥満、基礎疾患（乳房炎、肺炎、腸炎等）牛はハイリスク牛なので要注意です。このようなハイリスク牛は、早めに涼しい場所へ移動しておきましょう。

以下の症状が認められたら直ぐに対応を！

- 飼料の食い込み低下
- 著しい目の充血
- 飼槽が濡れるくらいの多量のよだれ
- 開口での荒い呼吸

暑熱の影響は、秋以降の生産性低下にもつながります。今年も早めの暑熱対策で牛のストレスを減らし、生産性の低下を防ぎましょう！（根本）

滋賀県（彦根） 平均気温および35℃以上日数 （気象庁データ）

